昭和43年度

冬・春山報告書

信州大学山岳会
女子山岳部

目次

冬山合宿
今回の合宿をかえりみて ------ 1
報告 ------ 2
行動記録 ------ 12
個人及び係の反省 ------ 5
春山合宿
春山報告 ------ 13
行動記録 ------ 17
個人及び係の反省 ------ 21

冬山

今回の合宿をかえりみて

C・L 森下

私達の合宿で、積雪期の山行は2回目です。一年の春山、そして今回の冬山、私達は、男子のやっている稜線歩きを主とせず、積雪期に親しみ易く、体力的面を考えてスキーをとり入れました。

冬はスキーの実力をつけるため八方尾根で春のためのスキーのみの合宿を行うことにしました。自分達の実力だけでは無理なのでコーチをたのみました。果して実力はついたかと言われればはっきり言えません。それは私達がスキーを軽視してしまったためであります。それとコーチの立場で多少問題があり、うまくいきませんでした。しかし、大きく言ってこれからの山行の足がかりになったことはえうまでもありません。また風邪をひいた者が出てしまい、その処置の方法が適当でなかったことはリーダー自身反省しております。

人数が少いことは各自部に含める位置が大きくなります。それと同時に、山行に於けるメンバーが変わらないため、多少なれあいになってきてしまいがちです。それと二同学年の者が三人いて、リーダーシップ・メンバーシップのむずかしさがどうしても出てきてしまいます。その点で私達は考えなければいけないと思いました。

メンバー

C・L	森下 妙子	コーチ 松田 亮治（大学教官）
S・L	平田 法子	
装備	牧田 敦子	
食糧	宮田千代子	
気象	中田 法子	
医療	宮田千代子	
会計	中田 法子	
技術	牧田 敦子	

期日　S43. 12. 24 ～ S43. 12. 31

場所　八方尾根 オーケルン付近

行動記録

12月24日　小雪

4：20　起床

5：24　松本発

8：50　白馬ケーブル下出発

4：40　リフト終点

小雪のちらつく中をラッセル。苦しい登りがつづいた。オーケルンまでの計画であったが、薬大ヒュッテでテントを張る

25日　晴

7:00　起床
10:20　出発
11:40　オーケルン着
12:45　コーラを迎えに黒菱まで行く
3:35　オーケルン着

薬大にあるテントを撤収してスキーをケーブルの所まで取りに行き、コーラを待つ。中田風邪で具合わるし。薬大前に残しておいたスキー4本、荷14kg上げる

26日　曇

5:20　起床
7:15～7:40　コーラの話し
8:00～5:30　練習

練習時間5時間30分のうちにボーゲン、直滑降、斜滑降山まわりクリスチャニア　中田休む

27日　曇

6:30　起床
9:20～4:30　練習

牧田途中、中田午前中滑る。午後森下、宮田で荷上げしつつ滑る。

28日　晴　風強し

6:30　起床
9:00～3:30　練習

シールをむいて黒菱まで下る。牧田休む

29日　雲　風強し
6;30　起床
午前中沈澱
1;00～3;00　練習

お茶の水大山系部の入遣6人テントを訪れる。上田OBの佐々木さんにあいテントで話す

30日　曇　風強し
6;30　起床
9;00～3;00　練習
3;20～4;50　自由練習

風が弱まってから荷10kgもしょう滑る後20kgしょう
コーチは今晩は国民宿舎へちょっぴり寂しい感じ

31日
6;30　起床
10;30　出発
1;40　岩平
2;40　ケーブルで下る

雪の状態が悪いのと時間的なことも考え、コーチなしでは無理なのでケーブルで下る

個人及び係の反省

コーチ　松田克治

1. 全般的問題について

(1) 個人の健康安全は勿論、全体の健康安全について最大の注意を払うべきであり、その考え方が部活動の一つの基調となるべきであり、感冒患者が出た場合、如何にして他の感染、本人の悪化を防ぐべきか　その点、誠によい機会であったと思われるが、最善の努力が払われなかったのは冬山に於ける訓練として残念に思われる。

(2) 部員と部外者とのかゝわり合いについては、すでに私が申した通りで、特に山岳部のように一般的クラブ活動、スポーツから見て特殊な内容を持つものは、明確な一線を画くして考えていくべきであり、この点を混同すると不必要なトラブルのもととなる可能性がきわめて大きいと思う。特に今後渉外については注意を要する。

(3) ゲレンデスキーと山スキーに対する考え方

スキーは全ゆる斜面、雪質に適応し、安全にスピーディーに滑降することが大切であり、その為には条件のよいゲレンデで充分に技を磨き、その応用として山スキーに入るのがよく、今回はその方向で練習をしましたが、まだまだゲレンデに於ける

基本的技術は初歩的段階です。兎角、山岳関係者はゲレンデスキーを軽視しがちですが、ゲレンデスキーをマスターして山スキーに入った人には山スキーオンリーの人はかないません。より高度な山スキーをマスターする為にゲレンデスキーを大切にして下さい

(4) 全てに於て臨機応変柔軟な考え方で物事に対処することが大切で、特に自然を相手にした山では大切なことである。

2 その他

(1) 冬山の場合はアルカリ電池の用意をすること。普通の電池では寒さに合うと駄目である。(トランジスターラジオも)

(2) 調理用の包丁もよいが、ハサミを用意することもよいと思います。マナ板を使わず、直接ナベの上で野菜や肉を切ることが出来ますし、他にもいくらも利用出来るはず。

(3) ホエーブスを温める固形燃料が不足して他のパーティーからもらってそのまま使っていたが、もらってもすぐに使わずあるもので工夫してみるべきである。果して上手に行くかどうかはやってみなければわかりませんが、ローソクのロー(蝋)を削っておいて糸くずを中に入れて火をつければ固形燃料の代用が出来ると思います。どんな場合でも身のまわりのもので工夫する訓練が大切と思います。

(ハ) テントの下へビニール等を敷くことを考えること。

(ニ) テントの中の空気はかなり汚れているのだから今後は一人2~3枚のマスクの用意をすべきである。

(ホ) 食糧についてはもう少し変化のあるもの、楽しい工夫をすべきではないかと思う。但し、これは予算、荷上げの体力などにもよるわけであるが、私の知人に昨年南米アンデス登山隊の隊長として活躍した人　最近連で活躍している人なども居ますが、彼等の考え方は、山では体力を消耗する反面、食欲が減退してしまい、長期の行動では思わぬ失敗をまねくこともあるので下界よりは豊かな楽しい食事を用意すると言っております。現在の数少い部員少ない資金では無理でもあろうが将来はそのような点も考慮して行く必要があると思われる。

(ヘ) スキー用具、シール等の点検をもっと事前になすべきである。

今回は大変勉強になりました。正直なところ山へ行くまでは、一晩か二晩、長くても三晩もテント生活をしたならば国民宿舎へ引きうつる予定で出掛けて行ったのですが、楽しく、つい五晩テント生活を終え、後のスキー指導のため最後の晩は国民宿舎へ参りましたがお気を悪くしないで頂きたく思います。とても良い経験になりました。

中田法子

ラッセルにまたラッセル。風吹の中での戦い。冬山での印象とはこんなものである。めざすピークを眼前にしながらも退かざるをえない時、私達は、さらにその山への激しい想いにかられる。

今回の合宿に於て、まわりに険立の山々を見ながら一歩もその山に歩み寄れなかったさびしさが何といっても一番大きい。積雪期の山行をよりよく行うための基礎、特にスキー術の取り入れによる今までの山行では得られなかったその技術の修得に重点がおかれた。必然的に実質的な山登りは、今回は断念した状態になった。当然、女子のみで冬山に取り組もうとしたのであるから、すぐ稜線へ出てピークを踏むということは考えられなかった。しかし、あまりにも山とは異なった生活環境ではなかったろうか。天候に恵まれた事もあってか、ただ雪の上で寝たという印象だけで冬山の"フ"の字にも接しられなかったような気がする。スキーの訓練にしても、何か主体性に欠け、物足りない内容で終ってしまった感じがつよい。これは個人によって異ると思うが、自分がこのように感じたその原因を考えてみるならば、まずオーに自分自身の合宿に対する構え方、これである。スキーを取り入れて、その基礎練習に主眼を置くと決ったときから安易な気持が滞在し始めていたのだと思う。新人の時に感じた入山前の身のひきしまるような思い、そんなものはみじんもなく、何となく入山してしまった。厳しさもなく、

雪と相接しようとしたのだから、今考えると恐しい。

次、オニに最終的な行容決定が、ごたごたして遅れたこと。このことは、部員全員に、また合宿そのものに大きな影響を及ぼしたことは否定できない。

オミに、全くの個人的な責任で、風邪などをひき、体調をくずしたこと、などが挙げられる。全体的の(先生を除いた)チームワークは別に問題はなかったと思う。テントワークもまずまず、しかし、前述したように、今回の条件はよすぎた。悪条件の下で、どれだけのテントワークができるか。お互いにさらに努力していかなくてはならない。一つ、実感として感じたことは、しばしば山を知らない人、テント生活に慣れていない人を一週間も、十日間も、雪上のテントの上にとじ込めておくのは、無理だということ、私達の感覚が、多少ずれているということである。

牧田敦子

鉛色の雲におおわれ、立っている事さえも辛い風に悩まされ、まつ毛も凍る冬山に、SACの部員は、テントを張っている頃、我々は八方尾根でスキー技術の修得に終める合宿をもった。

何か物足りぬ山であった。スキーにつづく、この合宿を基として、

スキーを使う山登りを頭に描き、力を注ぎ、あみだしていきたい。

宮田千代子

定着でスキー期間は、短かいということからか、それ程の不安もなく合宿にはいれた。
入山前は、色々と忙しかったが、仕方がないだろうと思う。
今度の場合何故感じたのかわからないが、リーダーシップ・メンバーシップの悪さを感じた。とり立てて、どこがと聞かれても、どこが悪いと言える程のものでもなく、山で感じたのに、下山してしまったら、忘れてしまう程のえんなものです。天候も良く、テントも快適でした。
ワッパでラッセルしても、スキーでやっても当然ラッセルは楽しいが、重い荷物を背負ってのスキーでのラッセルは、今後考える余地があると思います。

・各係報告

会計係

収入	合宿費	3200×4	12,800
	西山町よりカンパ		1,000
	下倉OBよりカンパ		1,000
	佐々木OBよりカンパ		1,000
			15,300
支出	装備		1,824
	食糧		8,157
	遺対金		500
	交通費		3,780
	連絡費		655
	お礼（ミコラフを借りたもの）		200
			15,116

差引残高　15300 − 15116 = 184

食糧係

最初の計画では量が多すぎたが、山行の際には、量を減らしてよかった。パンが一箱あまった事に関しては、どうしようもなかった。定着だったため半分しか食べられなかったのだが、四枚のパンは多すぎるのではないかと思う。山行に合はせて四枚を三枚にしてもらう事も今後考えたい。皆の口に合ったものを食べさせてあげることができなかったと思うが、今度の場合、重量をそれ程考えなかったので（一人一日一kg）まあまあのEssenだったと思う。

医療係

医療箱があれ程役に立った山行は珍らしい。最初の日より、風邪の患者が出てしまい、ほとんどの人が風邪をひき、下山まで誰かがコンコンせきをしていた。

風邪薬があれ程、必要となる事など思っても居ずたりなくなってしまったことは申しわけないと思います。今度の場合、風邪薬に関しては、全員が入山より下山まで毎日のむだけの量が必要だった。

だが、医療箱ばかりたよらず、入山前の健康には、各自で注意してほしい。自分の体の事は、自分でなければわからず、また、注意するのも自分以外の何者でもないのだから。

春山報告

場所　鶏峰ー初沢ー小蓮華山

期日　44年3月2日～3月7日

参加メンバー
牧田敦子
新谷剛
中田洋子
森下妙子
富田千代子

合宿を終えて

はてしなく奥深く続く青空、限りはあるが、広く大きな山容。私なんていくら歩きまわっても運転さえも消えてしまう、小ちゃな小ちゃな存在……。

冬山であまり動けなかったので、フルに動いてみたかった。白馬下タソワは目前にして断念したけれど、充分に動けて気がすんだ。

スキーについて
今回のスキー利用の仕方は、私が考えていたものに近づいてきたと思う。今後もこの様な山行を持ちたいが、スキーをフルに利用できる山の選択については、慎重に選んでいけばよいと思う。

またスキーが不適な山で自分達の行きたい山があれば、スキーに固執することなく行ったらよいと思う。

白馬マタックについて

天気は晴れていたが、非常に強風であったため、朝の出足が遅れたこと、ワンバを持たずに行ったため稜線に出るまでに思わぬ時間をくってしまったこと。強風による危険、アイゼンワークの不足。ゴーグルなしの者がいたために雪うになることを恐れた。などの要素作が重ってしまった。これらの事を見るとやはり自分たちの力不足によると思う。あのときは、ただ白馬へ行きたい行きたいという気持が強かったと思うが、それに、あの時態のパーティーの客観的な判断・判断が、まだ私には的確にできえなかったと思う。えこで結局、前谷ノルがリストップということになってしまった。やはり積雪期の二名にしてリーダーをやることは、難かしいと感じた。

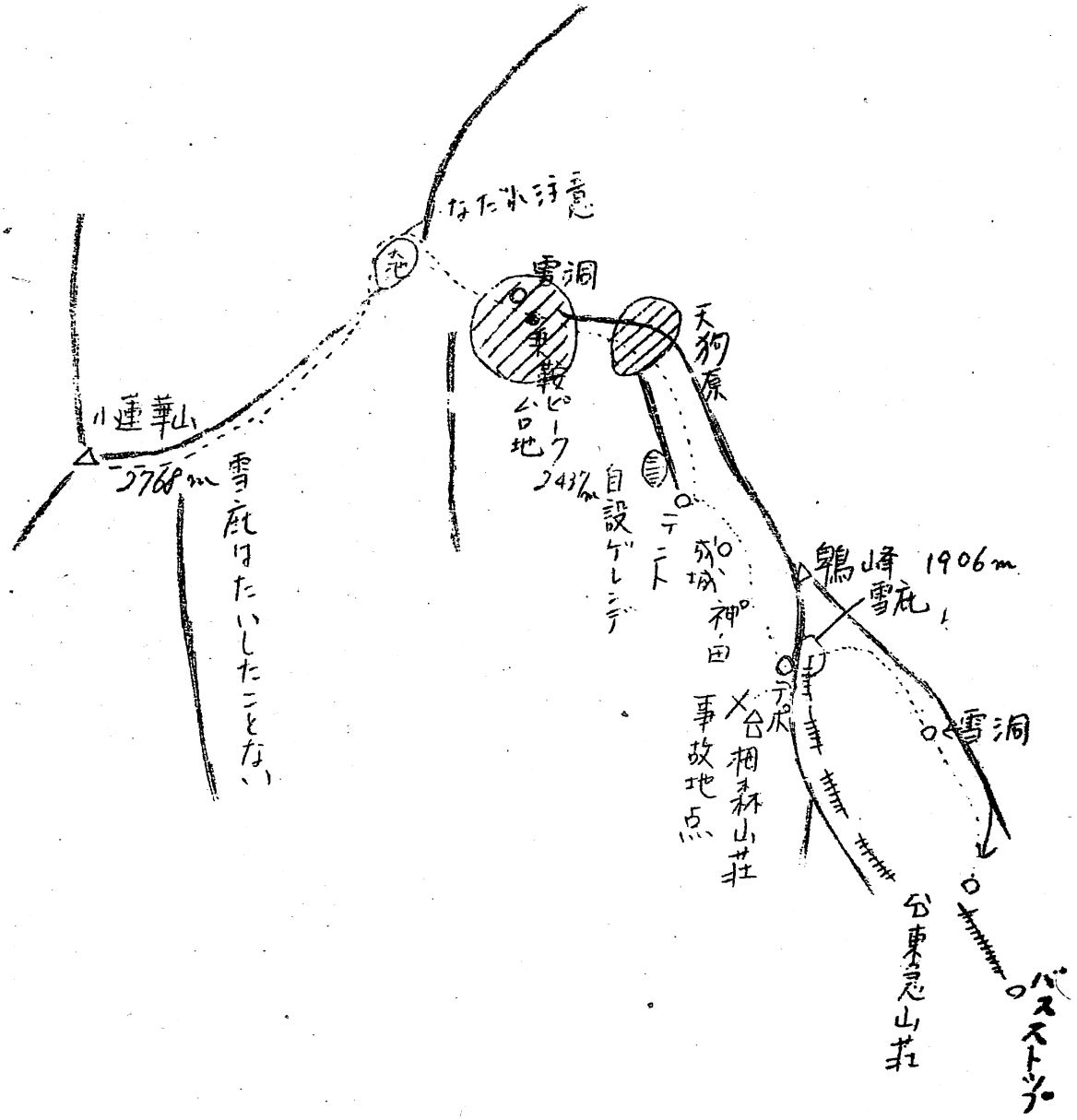
事故について

下山時は、25~6kgというかなり重い装備であったためにバランスがくずれやすく、一ピッチの前に数えられない程の回数、ころんだと思う。ころぶという事は、非常なエネルギーを消耗する動作で、事故のあったニピッチ目は、もうかなりバテていたと思われる。えこで踏みかためられた急斜面をブルーク・ボーゲンで滑った事も、

アイスバーン状の事故につながるもとであったし、スキーのベタツケンが効き易くなっていたと思ったのが、かえって滑る時に、足の固定がゆるんで逆効果になってしまい、スキー技術の不充分ということもあろうし、これもまた、悪条件がそろっていた。
スキーをはいてからの鉄則は、まず転ばないこと。安全なスキーでなければ山にスキーを取り入れるのも無意味である。
この事故がもとで、スキーをあきらめる事など考えたくはないと思っているが……。

リーダー補について

青山のリーダーは、私にとってはまだまだ大仕事、充分にこなしきれなかったので、新谷さんのコーチとしてのチームの位置の疑問など、色々不満もあったと思うが、皆な実によく動いてくれ、スムーズに、なごやかにテントワークもいって楽しかった。


なだ水注意
大池
雪洞
東斜面
台地
天狗原
小蓮華山
2768m
雪庇はたいしたことない
2437m
自設ゲレンデ
テント
弥陀ヶ城
神ノ田
事故地点
×台
鞍掛山荘
鞍掛峰
1906m
雪庇
ナビ
雪洞
谷東急山荘
バスストップ

行動記録

第1日（3/8）　天気晴れ

7:19	松本発	
9:38	白馬着	荷を軽くして、スキーで登る予定で30㎞
9:40	白馬発	をリフトでリフト最終点までデポ
	親の原 荷分け	デポ隊　中田・牧田　先発隊　森下・宮田
11:30	2 partyに分ける	デポ隊は下りはハンノ木コースの偵察
14:00 ～ 16:30	雪洞	をかねスキーで下りイグルーへ。先発隊は取り付き地点で半イグルーを作る高度が低いため雪が少く雪洞が掘れず半イグルーで。天井はスキーと本枝で棟を作りツエルトでおおう。
18:00	エッセン	この日はクマさんと渡辺君に出会った

第2日（3/9）　晴のち雪（ガス）

7:15	出発	シールをつけて尾根まで出るが雪が堅く傾斜がきついため苦労する　尾根から1ピッチの所でシールをあつらめワッカにはきかえる天気はよく快調
9:45	1250m	
14:35	1600m ガス発生 現在地確認	急にガスにおおわれ 現在地確認
15:00 ～ 17:00	雪洞	雪洞を掘るが良いのができた

第3日　　晴　　風、雪

7:20　出発　　朝小雪がちらついていたが1ピッチ行く頃には心地良くなった。

8:15　ピーク(1)前　トラバース開始　　トラバース開始　森林帯をぬけ馬の背の尾根へ移る　丁度雪庇の切れた所へ　そこから、スキーをはく。神の田んぼでシールをつけて裾池へ　ここはスキーで踏んだ道ができている　小屋前で一服　森下・中田がデポ地点まで設営用具など回収　夕方から吹雪始めた。

9:15 ～ 9:45　コルにてスキーをはく

10:40 ～ 11:00　神の田園

12:15　裾池ヒュッテ

第4日　　晴

9:15　出発　　全員でデポ回収

10:05 ～ 10:45　デポ地点　荷もたいして重くなく順調

11:40 ～ 12:15　神の田園

12:45　帰天

14:30 ～ 16:30　スキー練習　　裾池ヒュッテ付近でスキー練習をする

第5日　　雪　　滞澱　　台湾坊主のため大雪　新谷先生入山せず

第6日	雪　半沈	
13;30	新谷さん入天	
14;30 ～ 16;15	スキー練習	
第7日	高曇り	乗鞍へデポ．ピーク付近は風強く
6;45	出発	穴を掘り、風をしのいで一本。
8;55	2000m地点、	下りはスキー。新雪のスキーは気
9;55	天狗原上部	持がよい。乗鞍から天狗原，天狗。
11;45	乗鞍デポ	原の下の斜面はスキーに絶好。
13;30	下山開始 by スキー	
15;30	帰天	
第8日	晴時々曇り	
8;30 ～ 10;30	スキー練習	
12;00	2000m地点、	
13;00	天狗原下	
14;45	下山	
	ゲレンデ練習	
15;10	帰天	

才9日	曇り吹雪	天気が良くなさそうなのでスキーは、あずず。Attackに主眼を置いた。乗鞍までは俗気圧と競争、上では、強風がすごく、雪洞の適地を選ぶ余裕なし。雪洞は岩や、大木が出てきたりで複雑な形になってしまった。所要時間三時間弱。 風が強く雪が舞い込む。夜中は、ラッセルに再々起きる。
7;10	出発	
8;00	2000m地点	
10;00	大池	
14;00	雪洞	
才10日	沈	
才11日	快晴、風強し	天気の回復を待っていたが風はおさまらず出発　ワッパなしで稜線までしごかれる。アイゼン技術の不足ゴーグルなしの者いる、などで白馬までは行かず、小蓮華で引き返しそのまま雪洞を引き払って、栂池まで下山。
9;15	出発	
10;30	大池	
12;20	小蓮華山	
16;05	下山	
17;00	天狗原	
18;00	帰天	
才12日	晴　　下山	朝遅く出発、神ノ田圃まで転び転び行く。転んで非常に体力を消耗しているのがよくわかる。栂森ブレンデをプフルーク・ボーゲンで りる。2;30頃 中田転倒、骨折栂森山荘へ運ばれ、応急処置をしてもらい、リフトで親ノ原まで、その日のうちに下山。
11;30	出発	
13;00 〜 13;45	神ノ田圃	
12;30	栂森ブレンデで事故発生	

春山　個人及び係の反省

森下

今回の合宿をかえりみて、非常に残念に思うのは、冬の失敗点がまたおこったことです。合宿というのが二度つづけて失敗しないためにミーティングがあるのですから。しかし部外者でなければ自分達をよりよくわかってくれるだろうといったことがあまかったようです。私達には、私達なりのやり方でやっていきたいということが強く出ませんでした。ここでこんどの事故の原因を言ってもはじまりませんが。リーダーとコーチの問題点、これは今後部外者でも部内者でも入れられるときに起こることです。ここで私達がしっかりしなければいけないのはリーダーシップとメンバーシップの範囲でもありましょう。特に、外部の人がはいってきたときに対処するのはとてもむずかしいことです。これからは案内者を入れないということではなく、自分達の実力にあわせた山行きをもってゆくために指導の範囲をはっきりさせることです。何をやってもらうためにはいるのか。そしてその人の位置をはっきりさせることでしょう。今回の合宿は今までになくのびのびとやれ

→2/

た山行でした。しかし、それが自分達だけでできなかったことは私達の実力以上のことだったのではないかと思われます。女子のみでやってこそ自分達の実力を知る件会のように思います。

宮田

自分の技術の未熟さを痛感した山行であった。アイゼン・スキー技術・体力　共に皆に迷惑をかけたことを本当にすまないと思う。いつの反省文でも悪かったとか、申しわけなかったということばが出てくるのはなさけない。

今後技術的なものと共に"考える山"二年部員としての自覚を持った山を行いたい。

係の反省

ESSEN

今回の春山合宿での食糧は、スキー使用のため軽量化ということに重点をおいた。慣例に従って野菜・肉を乾燥（炭火にて）してみた。肉の方は、生肉よりも保存の点・味などにおいて良かった。野菜についても同様の処理を行った。軽量化には成功したが、味食べごこち共にあまり良い物ではなかった。乾燥野菜と生野菜を比較することはできないにしても変色・もどし方・乾燥方法、又栄養価などについても研究の余地があると思います。

中田

あったかい太陽

天からふりそそいで雪の斜面に落ちました。そこから再び私の顔に戻ります。春ですね　氷の風は今にも手をホホを硬直させはしまいかと、昨日の雪をとばしています。

また夜がやってきて、ろうそくが音もなく燃えています。雪の穴の中　安住の世界　外の風のうなりはみじんたりともしない。明日はあの稜線です。

夢と、エネルギーにもえたあの日々　たった十日あまりの雪の中の生活がどんなに楽しかったか　最後の日の一瞬も今はその楽しさにかくれ私の胸にはよみがえらない　痛さも忘れた　ただ有るのは、また柵のあいまから後立を見、稜線を歩く大きな希望だけなのです

気象係

天気図による天候判断　それは高戸天気図があっても難しいと言われます。今回の合宿においては、全員が天気図をとることによって、より正確に書きとることを身につける意味ではたいへんよかったと思います。比較的天気図に表われにものが顕著であったことから、判断もしやすく結果的に見たらほとんど予想した通りになったわけで行動もしやすかったと思います。

自身の持てる判断は、精神的に非常に安心感を持たせ、その合宿を大きく左右します。パーティー全員のものが読み方、判断の基準を身につけることが一番重要なことではないでしょうか

会計係

収入	合宿費	4200×4	16800
		3000×1	3000
	吉安さんよりカンパ		500
	小川さんよりカンパ		500
	鳥カよりタクシー代残り		70
	合計		20870
支出	エッセン費		12846
	装備〃		1113
	医療〃		570
	交通〃(含リフト)		3510 (にだし帰り別)
	遭対金		500
	計画書郵送代		485
	合計		19024
	残金		1846